

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 729 号 平成 26 年 5 月 1 日

## 小中一貫教育

白糠町では、2018年度（平成30年）から町内全小中学校で小中一貫教育を導入する、という方針を決めたそうです。

小中一貫教育の目的等について、町では、小学校6年間、中学校3年間の計9年間の授業を前期4年、中期3年、後期2年の3つに分け、既に始めている英語や中国語の学習の強化と連動させて、国際社会で活躍できる人づくりを目指すとしています（3月29日付北海道新聞から）。

具体的には、津波対策のために移転合築する事になった庶路小学校と庶路中学校を、2018年度の開校に併せて小中一貫校とすると共に、その他の学校（白糠小学校、白糠中学校、茶路小中）については、現在の校舎を使用しながら、それぞれに合った一貫教育を行う計画としていますので、町内では、一体型と分離型という異なる方式による小中一貫教育が行われる事になります。

小中一貫教育は、小中9年間を見通したカリキュラムに基づき教育実践を行おうとするものですが、その導入に関しては、

○「中1ギャップ」という言葉がある様に、小学校から中学校への接続が大きな課題となっている中、義務教育全体を一つの塊としてとらえるなら、6・3という区切りにこだわる必要はない、

等積極的に評価する意見がある一方で、

○学校教育を巡って様々な問題があるとはいえ、現在の6・3制で十分対応が可能であり、膨大な手間とコストを掛けてまで導入するメリットがあるのか、といった反対意見もあり、賛否は割れているといっただけでしょう。

私自身は、「明日中等学校」が中学と高校の接続を視野に教育実践を行い大きな成果を上げている事を見ても分かる様に、中学校と高等学校だけでなく、小学校と中学校の接続、更には小学校から高等学校までの中長期的な接続を視野に入れた教育実践は、中1ギャップの解消のみならず、各教科を計画的に継続指導する事を可能にし、学力向上の面でもメリットは大きいと考えています。

従って、地域や学校によって事情は様々であり、画一的な議論は避けるべきですが、小中一貫教育を含め小学校と中学校の連携については、いずれの地域・学校においても、積極的に検討する価値があると思っています。

「教育時評（No31）」では、小中一貫教育の実践例について特集を組んでいますが、そこから見えてくるのは、小学校と中学校という組織文化の大きく異なる組織が「小中一貫教育」という目的を共有し、実践していくためには、教育委員会や校長の強力なリーダーシップと、十分な準備が不可欠だということです。

小中一貫教育は、施設一体型で行われる場合と小学校も中学校も今まで通り分離した中で行われる場合とがあり、それぞれに一長一短があるようです。

まず、一体型の場合は、日常的に小学生と中学生が同じ施設で学ぶことから、小中一体となった取り組みや教師同士の連携もしやすいというメリットがあります。しかし同時に、白糠町の場合はたまたま移転改築と重なったため問題にはなっていませんが、一体型の施設を新たに建設するという事になれば相当のコストが必要になります。更に、小学校と中学校それぞれの独自性をどう考えるかという問題も出て来ます。

一方、分離型の場合は、それぞれの学校の独自性は確保されますが、互いに離れているために、学校間の移動距離等を考えた場合、日常的な連携は簡単ではありません。

また、小中一貫教育では、相互乗り入れ、つまり中学校の教師が小学校でも授業したり、小学校の教師が中学校で授業したりするという事があり得ると思われませんが、それを円滑に行うためには、教員免許の問題や教師の負担の問題等解決しなければならない課題もあります。

特に、小、中学校の教師間で、小中一貫教育の意義を共有し、課題解決のために協働する事が出来るかは、事の成否を左右する大きな課題ですので、白糠町においても、この点についてしっかりと取り組み、教師間の意思を固めて置かねばなりません。また、子ども達が白糠町にいる限りは問題ありませんが、修学の途中で町外に転居した場合の学習上の影響についても、予め考慮して置く必要はあるでしょう。

「教育時評（No31）」では、呉市における小中一貫の取り組みが取り上げられていますので、紹介したいと思います。

呉市では白糠町と同様に、小中学校9年間を「4・3・2」の区分で分けた考え方で小中一貫教育を進めています。

呉市立和庄中学校では、次の3つの取り組みが行われています

- ・多様な乗り入れ授業
- ・各学校で、小中一貫教育を推進するためのコーディネーターを指名
- ・年3回の教師による異校種の授業参観

呉市では、平成12年度から当時の文部省の研究開発学校の指定を受け一部の学校で小中一貫教育の研究に着手し、その後、平成19年度から市内全ての学校について本格的な小中一貫教育を行っているという事ですから、準備に相当時間をかけ

ていることが伺えます。

呉市立和庄中学校の川崎辰美校長は「小学校と中学校のそれぞれの組織文化の違いを活かし、児童生徒9ヶ年の発達段階に沿いながら、効果的な教育を進めて行く事が、小中一貫教育の良さではないか」と述べています（教育時評「No31」から）が、白糠町においても、小中一貫教育の趣旨を十分活かす事が出来るよう、慎重かつ積極的な検討を行って欲しいと思っています。（塾頭：吉田 洋一）